

「咸宜園放學遊山」
ひろせ たんそつ
かんぎえん ほうがく ゆさん
淡窓先生と咸宜園で学ぶ塾生達が
歩いた足跡

咸宜園を世界遺産に！



- 北部 (North)
 - 東部 (East)
 - 西部 (West)
 - 南部 (South)
- (エリア別色分け)

場所の詳細は↓から

google マップ

※番号は『廣瀬淡窓と咸宜園～近世日本の教育遺産として～資料編』の資料番号を記しています

主な咸宜園放学遊山の地

1 羽野天満宮 (はのてんまんぐう)

羽野天満宮は日田市天神町、現在の国道212号線沿い、大分自動車道の高架近くの左手にひろがる通称山田原の東斜面にあります。羽野天満宮に伝わる「羽野天満宮略記」等によれば、菅原道真すがわらのみちざねの甥菅原貞光が筑紫下向の折、道真公の靈示をうけて公より伝わった法華經と地藏經とを御神体にして創建したと伝えられています。

2 羽野菅相寺 (はのかんそうじ)

「羽野天満宮略記」によれば、羽野天満宮にはかつて円福院という古い寺があって、十一面観音像を本尊としていたが、天満創建の際にこれを菅相寺と改めたということです。この寺は、羽野天満宮の宮寺というべき寺で後に、英彦山権現の末社となりました。

3 羽野妙見社 (はのみょうけんしゃ)

羽野天満宮の境内の北辺には羽野妙見社ほうれき(跡)があります。元々、羽野村千倉にあったもので、この神社が宝暦6年(1756年)頃羽野本村の天満社の北に移されました。現在は、石段と鳥居が残されています。

6 山田原 (やまだばる)

羽野天満宮から坂を上ると山田原と呼ばれる台地があります。ここから日田盆地を一望する事ができます。旅の始まり、あるいは終わりの送迎は、しばしこの山田原で行われました。

7.8 吹上山・吹上神社 (ふきあげやま・ふきあげじんしゃ)

吹上神社には観音像が祀られていて吹上観音まつふきあげかんのんとして熱い信仰を受けています。淡窓の父や廣瀬家の人が家人の病氣平癒などを願って参拝しています。また吹上台地には弥生時代の吹上遺跡ふきあげいせきがあり、貝輪や銅剣・銅戈が出土しています。

10 岳林寺 (がくりんじ)

岳林寺は、日田郡司大蔵永貞ひたくんじ おおくらながさだが元の渡来僧明極禪師みんきせんじに帰依し、禪師を開基として康永元年(1342年)に創建されましたその後、大蔵氏の衰亡と戦国の争乱の中で一時荒廃しましたが、その後16世紀に再興されました。往時、その寺域は吹上台地を背にして、東西に広がっていました。九州唯一ちよくがんじの勅願寺でもあります。

11.12 永山城・永山布政所 (ながやまじょう・ながやまふせいしょ)

慶長6年(1601年)、小川春岐守光氏が友田村に丸山城を築きました。その後、元和2年(1616年)石川主殿頭忠総いしかわたのものかみただふさが入り、月隈山に移されていた丸山城を永山城と改めました。そして寛永16年(1639年)日田の地は島原の乱を受け代官支配地となり、二人代官(小川藤左衛門、九左衛門)が着任、永山城前に布政所を設置しました。これにより永山城はその使命を終えることとなります。

15.16 石松観音堂跡・蕪観音 (いしまつかんのんどうあと・かぶかんのん)

花月川の支流有田川に沿う石松の地に石松観音があります。この観音堂は森春樹の『亀山鈔』廃寺の項に「石松村に松林寺ありし。その観世音菩薩の木像、其験ある由にて二世秋風庵桃秋翁、室を建てしなり」とあるように廣瀬家にゆかり深いお堂でありました。

17.18 慈眼山・永興寺 (じげんざん・ようこうじ)

慈眼山は、花月川の左岸に突出した丘陵であり、早くから大蔵氏の居城となっていたところです。ここに所在する永興寺は、開基は新羅の僧智元、延久年間(1106~72年)に、日田郡大領大蔵永季おおくらながすえが父永興を弔うために建立したと伝えられています。ここには国重要文化財に指定されている一群の仏像があり、木造十一面観音立像が永興寺の本尊です。淡窓が「日記」などに慈眼山を「城内観音閣」と記しているのも、この観音像によるものだと思います。

20.21 上馬場大神宮・城内八坂社 (かみのばばだいじんぐう・じょうないやさかしゃ)

城内観音閣への遊山にあたっては、近くの上馬場大神宮や城内八坂社をめぐって帰ることが、多かったようです。上馬場大神宮は、現在も「お伊勢様」として祀られています。

22 大原八幡宮 (おおはらはちまんぐう)

大原八幡宮の初見は、天武朝に靱負郷岩松峰に八幡神を名乗る神が現れ、社を建てて祀ったと伝えられています。この岩松峰の伝承地には、鞍形尾神社がありその後、平安時代の延喜年間に日田郡司大蔵永弘によって、元大原神社に遷座せんざし、寛永元年(1624年)日田永山城主石川主殿守忠総により、元宮から現在の位置へ遷座せんざされました。『懐旧楼筆記』にも繰り返し参詣等の記事が見えます。淡窓は、天保3年から同5年にかけて、毎日のように頻りに参詣しています。

23.26 金比羅神社・元大原神社 (こんびらじんしゃ・もとおおはらじんしゃ)

淡窓師弟が大原神社から足を延ばした金毘羅社は、大原神社本殿から尾根伝いに参道のあるいたところであり、日田盆地全体を眺望することができる場所です。一方、元大原神社は、大原神社の東南1.5キロほどのところにあり、岩松峰から、この地に遷座した後、文明6年(1474年)に再建、さらに宝暦10年(1760年)に再興されました。境内に並ぶ神殿、拜殿、水盤舎等は市有形文化財に指定されています。

27 若八幡神社 (龍馬森稲生社) (わかにはちまんじんしゃ (りょうまのもり いなりしゃ))

若八幡社は大原神社の外宮として放生会等の祭礼にも関わり深いお宮で、市民には宮太夫みやんてと知られ、大原宮の宮司家が当地に住んでいた場所です。この宮は『懐旧楼筆記』や「日記」には「龍馬森」「稲生社」などの名で見え、代々信仰の深かったこともあって、淡窓や廣瀬家とは特に関係の深いところです。

28 会所宮神社 (よそみやじんしゃ)

大原神社の近隣に淡窓師弟が足を運んだところのひとつに大原神社の南1キロのところにある会所山よそやまと、麓にある会所宮神社、及びそのすぐ南にある鬼塚があります。会所山は、『豊後国風土記』に見える景行天皇巡幸にかかる久津媛ひさつひめの伝承にちなむところであり、頂上には久津媛神社が存在しています。淡窓師弟は、豆田、咸宜園から隈川や高瀬方面に歩く場合、田島から会所宮を経て、この鬼塚に登り、さらに川筋に歩いたと記しています。

31 玉垂神社 (黒男祠) (たまたれじんしゃ)

今も「くろうさま」と呼ばれる玉垂神社は、咸宜園から西に1キロあまりのところ、日田市十二町にあります。福岡県久留米市の高良山に鎮座する高良大社の祭神、高良玉垂命たけのうちのすくねが武内宿弥であることから何らかの関係があったものと思われます。

33 星隈山 (ほしくまやま)

星隈山は、日隈山、月隈山とあわせて日田の三隈と呼ばれています。山上には星隈神社があり、全山雑木に覆われ、花月川に臨み、三隈川との合流点をみる事ができます。山腹には数十の横穴古墳があり、山麓には大型の横穴式石室を持つ三郎丸古墳があります。

34 日隈山・日隈城跡 (亀山公園・日隈神社) (ひのくまやま・ひのくまじょうあと)

亀山公園周辺は、淡窓が幼少から親しんだ景勝地です。また、大友氏が改易された後、文禄3年(1594年)代官宮木長次郎が派遣され日隈城を築きました。

35 酒楽神社 (しゅらくじんしゃ)

淡窓は、徳瀬の善神王社にも詣でています。徳瀬善神王社は今、酒楽神社といい、木造薬師三尊像が安置されています。

43 釜淵 (かまぶち)

淡窓師弟がよく訪れたところのひとつが高瀬の釜淵—鬼城観音—普門寺をめぐる行程です。釜淵は現在、琴平公民館の裏、高瀬川にかかる鰐淵橋から下流にあり、その風景は、江戸時代末期の浮世絵にも描かれています。

44.45 琴平神社 (金毘羅宮)・鬼城・普門寺跡 (ことひらじんしゃ (こんびらぐう)・おにがじょう・ふもんじあと)

淡窓はこの釜淵から近くにある鬼城金毘羅宮、普門寺に足を延ばしました。金毘羅宮は釜淵の南の丘陵上にあり、琴平神社として今日も厚く尊崇されています。普門寺については、いまは荒廃した庭園の中に小堂が残っていますが、かつては本尊とともに開山の笑巖和尚の頂相(市有文)が安置され、背面下部の墨書によれば応永16年(1409年)和尚の三十三回忌法要に際して造立したと記されています。

51 石井神社 (いしいじんしゃ)

石井神社は日田国造止波宿禰を祭神とする。日田では大原八幡宮に次ぐ1300年の緒由緒のある神社です。『豊後国風土記』によると、石井の地は古代の石井郷、石井駅が置かれたところで、特に筑後方面との交通の要衝でした。この神社の宝物として中広銅鉾(市有形文化財指定)が保存されています。

55 護願寺 (ごがんじ)

護願寺は、日田市では数少ない黄檗宗おうぼくしゅうの寺で、盆地を望む丘陵上にあります。奈良時代に造られたと伝える薬師如来像など、貴重な文化財があります。

56 帽子被山 (ぼうしかぶりやま)

帽子被山は、石井の穴観音古墳の西にある山で、淡窓の記すように「山高キニ非ザレドモ」眺望優れた山です。

57 石坂石畳道 (いしざかいしだたみみち)

石坂石畳道は、日田代官所と中津、宇佐四日市の陣屋を結び往還の一部で、日田から中津へ通じる主要道路のひとつです。岩や石の露出した難路だったため、嘉永3年(1850年)、隈町の掛屋、京屋作兵衛(山田常良)が周防山口の石工に依頼し築道しました。道路完成の翌年、廣瀬淡窓が石坂改修の由来を漢文で撰し、隈町の森昌朋の書で「石坂修治碑」という記念碑が建てられ、今も現地に残っています。

59 鞍形尾神社 (くらがとおじんしゃ)

鞍形尾神社は玖珠川をさかのぼった馬原の山中にあります。この神社は大原八幡神社の淵源にかかる伝承があり、天武天皇9年(680年)靱負郷岩松峰(日田市天瀬町)に宇佐の八幡神が現れ、社(鞍形尾の宮)を建てて祀ったと伝えています。